【巻頭言】

被服衛生学部会への私の思い

内田幸子

高崎健康福祉大学健康福祉学部

被服衛生学部会の前身である被服衛生学研究委員会が発足したのは1976年（その後1979年に被服衛生学部会と改称）、今年で45年目を迎えます。部会の歩みを拝見するたび、創生期の先生方の熱意とご尽力、歴代の部会長はじめとする諸先生方の行き届いたご配慮が今日の被服衛生学部会に続いているのだと感銘を受けてきました。

部会の主な活動は、被服衛生学セミナー、講演会・公開講座の開催、部会誌の発行です。

新型コロナウィルス感染症拡大の影響により延期されていた被服衛生学セミナーは、今年夏にオンラインで開催されました。「アパレルとSDGs」についてさまざまなお立場からご講演をいただき、議論を深めることができました。実行委員長の佐藤希代子先生はじめセミナー実行委員会の先生方に大変お世話になりました、深く感謝いたします。1982年に第1回被服衛生学セミナーが開催されてから、来年度で40周年を迎えます。これを記念して、佐藤真理子先生を実行委員長として、第40回被服衛生学セミナー開催に向けた準備が進められております。部会員の皆さまと交流や親睦の機会が少なくなっていることは非常に残念ですので、対面開催できると良いと考えております。対面での開催が叶うかは現時点では未定ですが、セミナー開催のご案内が届きましたら、是非ご参加いただきますよう、お願いいたします。

今年度の遠隔講演会は、企画委員長の薩本先生を中心する企画委員の先生方のご尽力により、「コロナ禍での快適性と感染防止」のテーマで開催されます。この巻頭言を書いているときはまだ開催前ですが、ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

また、編集委員長の前田先生を中心とする編集委員の先生方のご尽力により、第41号が刊行されました。総説、国際交流回想録、研究室紹介、書籍紹介、部会活動の報告などに加え、本号からは名誉会員になられた先生方からの特別寄稿も掲載されています。以上のように、副会長の潮田先生をはじめ顧問、監事、企画、編集、会計、庶務、HPの役員の先生方の心強いご協力をいただき、部会活動は着実に進められています。

コロナ禍の日々が続き、いままで当たり前だと思っていた生活が規制され、生活者の意識や価値観は変化してきました。このような状況だからこそ、被服衛生学の研究分野である「衣服と健康の科学」はますます重要となり、社会の関心は高いと感じています。

2021年6月現在、73名（賛助会員2団体を含む）の部会員がいらっしゃいます。部会員相互の研究や情報交換できる交流の場を設け、部会の特徴ある研究成果を講演会・公開講座、部会誌発行の活動を通して、社会へ発信していきたいと考えております。

振り返ってみますと、今から20年ほど前に田村照子先生の下で大学院生活を始めたと同時に部会に入会しました。各地で開催されたセミナー・講演会で、部会員の先生方とご一緒する機会も増え、役員も経験させていただきました。思いがけず4月から部会長を仰せつかることになり、無力な私では担いきれないと不安な気持ちでいっぱいでした。浅学な身ですが、これまでお世話になった部会への感謝の気持ちをお返しする思いで、任期の2年間、部会の円滑な運営に尽力したいと思っています。部会員の皆さまにおかれましては、引き続き部会活動へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

＜連絡先＞

〒370-0033
群馬県高崎市中大類町37-1
高崎健康福祉大学健康福祉学部社会福祉学科
内田幸子
TEL: 027-352-1290
Eメール： uchida@takasaki-u.ac.jp